

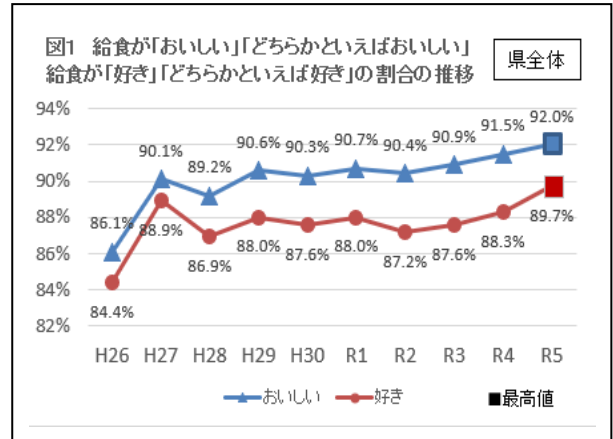
6 結果 令和5年度「食に関するアンケート」【校種別集計】<児童生徒> のとおり

7 結果の概要・考察等

○問1 学校給食が「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答した割合は、合わせて9割以上前年度よりわずかに増加し、過去最高(図1)

90.9% (R3) →91.5% (R4)
→92.0% (R5: 前年度比 0.5P 増)

- ・小学校では 92.9% (前年度比 0.5 ポイント増)、中学校で 88.2% (同 0.6 ポイント増)、特別支援学校では 93.8% (同 1.7 ポイント減) の児童生徒が、学校給食を「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答し、全体として過去最高であった。



○問2 学校給食が「好き」「どちらかといえば好き」は合わせて約9割、前年度よりわずかに増加し、過去最高(図1)

87.6% (R3) →88.3% (R4) →89.7% (R5: 前年度比 1.4P 増)

- ・小学校では 90.5% (前年度比 1.2 ポイント増)、中学校で 86.3% (同 2.1 ポイント増)、特別支援学校では 90.7% (同 4.4 ポイント減) の児童生徒が、学校給食を「好き」「どちらかといえば好き」と回答。

○問3 学校給食を「好き」「どちらかといえば好き」と答えた理由は、「おいしいから」が最も多く約8割(過去最高)「みんなと一緒に食べることができるから」は約6割

「おいしいから」 71.5% (R3) →73.0% (R4) →77.1% (R5: 前年度比 4.1P 増)

「みんなと一緒に食べることができるから」

51.2% (R3) →48.9% (R4) →59.4% (R5: 同 10.5P 増)

「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」

53.8% (R3) →54.5% (R4) →58.4% (R5: 同 3.9P 増)

「好きなものを食べることができるから」

42.7% (R3) →45.7% (R4) →53.6% (R5: 同 7.9P 増)

「家で食べられない料理を食べることができるから」

50.9% (R3) →52.4% (R4) →53.3% (R5: 同 0.9P 増)

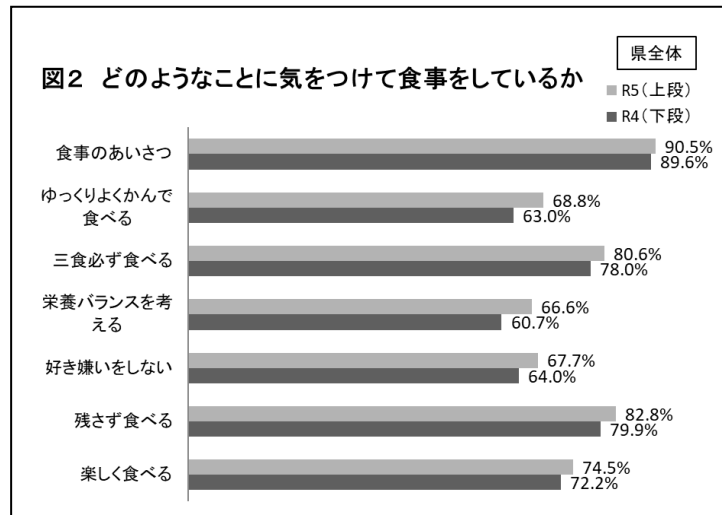
- ・前年度に比べ最も割合の変化が大きかった理由は、「みんなと一緒に食べることができるから」で 59.4%、前年度より 10.5 ポイント増加した。小学校で 9.4 ポイント増加、中学校で 13.2 ポイント増加、特別支援学校で 1.8 ポイント減少。令和 3～4 年で約 5 割となったが、令和 2 年の 57.4% に近い数値となった。

(学校給食について)

問 1・問 2 の結果より、多くの児童生徒が学校給食を肯定的にとらえていることがうかがえる。問 3 の学校給食が好きな理由についても、約 8 割の児童生徒が「おいしいから」、5 割以上の児童生徒が「栄養バランスを考えた食事を食べることができるから」「好きなものを食べることができるから」「家で食べられない料理を食べることができるから」と回答している。また、「みんなと一緒に食べることができるから」と回答した児童生徒は 59.4% であった。昨年度初めて 5 割以下となり過去最低(令和 2 年まで約 6 割程度)となったが、令和 2 年の 57.4% と近い数値となった。令和 5 年 5 月に、新型コロナウイルスが 5 類に移行されたことで、黙食が見直され、感染症対策に配慮しながらも、会話を楽しむなど、共食の良さが感じられる環境・雰囲気作り工夫が見られたことが理由として考えられる。

今後も引き続き、学校給食の充実、給食を教材とした食に関する指導の充実を図り、児童生徒の学校給食への関心を高めていくことが重要である。

○問4 食事で気をつけていることに「食事のあいさつ」の回答が最も多く、約9割(図2)



- ・前年度に比べ最も割合の変化が大きかった項目は、「栄養のバランスを考えていろいろなものを食べるようにしている」で5.9ポイントの増加。小学校で5.9ポイント、中学校では7.9ポイントともに増加、特別支援学校では15.8ポイント減少した。
- ・小学校・中学校では、前年度に比べほとんどの項目で増加。
- ・特別支援学校では、前年度に比べほとんどの項目で減少。前年度に比べ割合の変化が大きかった項目は、「栄養のバランスを考えていろいろなものを食べるようにしている」が15.8ポイント減少、「好き嫌いをしないようにしている」が9.3ポイント減少した。

(食に関する意識について)

食事で気をつけていることの全ての項目で、ポイントが増加した。今後も、規則正しい食生活や栄養のバランス等、栄養教諭を中核とした食に関する指導の充実と併せて、家庭への情報提供や啓発活動を行い、児童生徒の食への興味関心を高め、望ましい食習慣の形成を図ることが求められる。

特別支援学校では、全ての項目でポイントが減少した。障害の特性や発達段階の差も大きいことから、個に応じた食に関する指導がさらに求められる。

○問5 地場産物には何があるか「知っている」と回答した割合は、県全体で約7割

「知っている」 68.1% (R3) →70.2% (R4) →69.2% (R5 : 前年度比1.0P減)

- ・小学校低学年では55.7% (前年度比0.8ポイント増)、小学校高学年では77.2% (同2.9ポイント減)、中学校では80.8% (同0.5ポイント減)、特別支援学校では27.9% (同0.8ポイント減)であった。

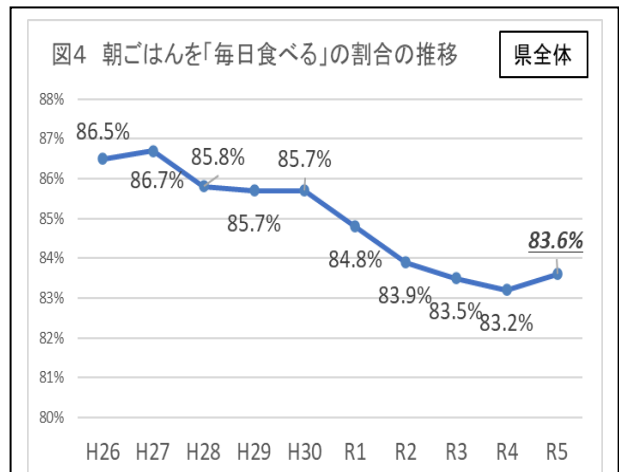
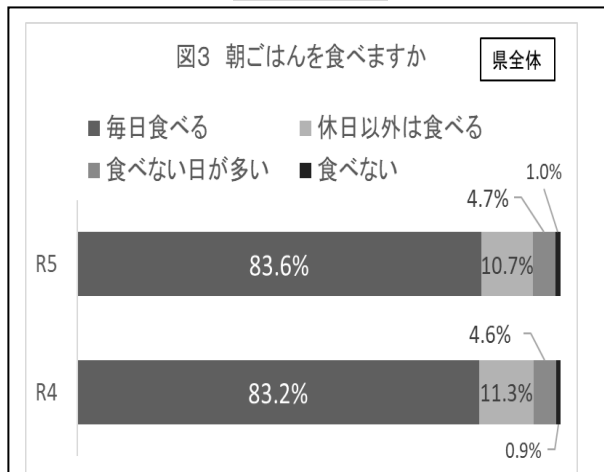
(地場産物について)

令和3年度より追加した調査項目である。国の第4次食育推進基本計画(令和3～7年度)における食育の推進に当たっての目標の一つに、「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」が掲げられている。また、県の教育振興基本計画(令和2～6年度)の施策の一つにも、「地元食文化を理解するため、地場産食材を使用した給食を提供」等、食育や地場産給食の推進があげられている。そこで、給食での提供はもちろんのこと、食育に関しては、栄養教諭や県学校給食会等が連携し、地場産物を紹介する動画教材等を作成・活用した取組も進めているところである。

今後も引き続き、県や地域の農林水産物を活用した給食を計画的に取り入れ、給食の時間の放送等による食材や生産者の紹介、体験活動、ICTを活用した家庭へ情報発信等、様々な取組や啓発を通して、児童生徒の地場産物に対する理解を、校種や発達段階に応じた方法で深めていく必要がある。

○問6 朝ごはんを「毎日食べる」と回答した割合は前年度よりわずかに増加(図3)

「毎日食べる」 83.6% (R5) : 85.2% (小)、76.5% (中)、95.0% (特)

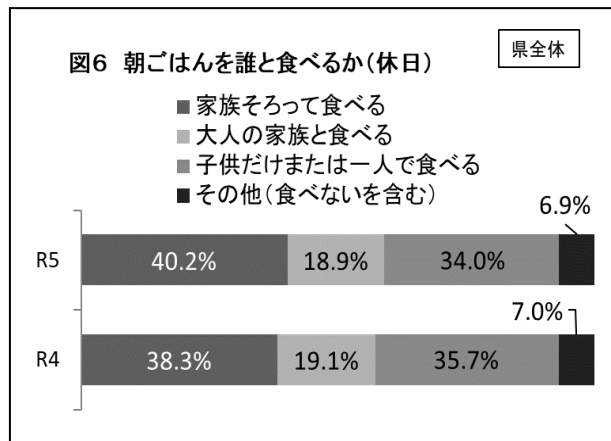
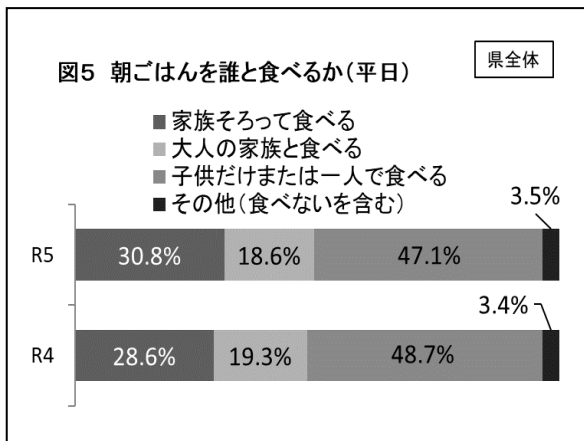


- ・「毎日食べる」と回答した児童徒の割合は83.6%で、前年度に比べ0.4ポイント増加。小学校では0.7ポイント増加、中学校では1.5ポイント減少、特別支援学校では4.2ポイント増加した。また「休日以外は食べる」と回答した割合は10.7%、前年度に比べ0.6ポイント減少した。
- ・年次推移では、「毎日食べる」割合は令和4年まで減少傾向であったが、令和5年はわずかに増加した。(図4)。「食べない」割合は約1%で横ばい。

○問7 朝ごはんを「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合は、平日で約5割、休日で約6割(図5、図6)

平日 47.4% (R3) →47.9% (R4) →49.4% (R5 : 前年度比 1.5P 増)

休日 57.3% (R3) →57.4% (R4) →59.1% (R5 : 前年度比 1.7P 増)



- ・小学校、中学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」の割合はわずかに増加した。
- ・特別支援学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合がわずかに減少した。

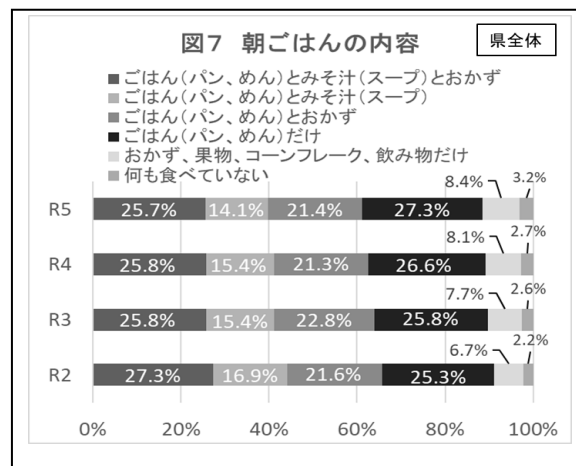
○問8 朝ごはんの内容は「ごはん+汁物+おかず」は減少傾向、「ごはんだけ」「おかず、果物、飲み物等だけ」は増加傾向(図7)

「ごはん+みそ汁+おかず」 25.7% (R5) : 25.1% (小)、27.6% (中)、42.3% (特)

「ごはんだけ」 27.3% (R5) : 28.2% (小)、23.5% (中)、18.0% (特)

「おかず、果物、飲み物等だけ」 8.4% (R5) : 8.6% (小)、7.6% (中)、5.8% (特)

- ・「ごはん＋みそ汁＋おかず」と回答した児童生徒の割合は、前年度と比べ、小学校で0.3ポイント減少、中学校で0.8ポイント増加、特別支援学校で12.3ポイント増加した。
- ・「ごはんだけ」と回答した児童生徒の割合は、小学校で0.5ポイント増加、中学校で0.4ポイント増加、特別支援学校で2.3ポイント減少した。
- ・「ごはんだけ」「おかず、果物、飲み物等だけ」「何も食べない」と回答した児童生徒の割合は合わせて、小学校中学校ともに約4割、特別支援学校では約2割程度いる。



(朝ごはんについて)

朝食摂取状況や共食状況、朝食内容については前年度と比較して、「毎日食べる」児童生徒の割合がわずかに増加した。小学校・中学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」の割合はわずかに増加した。特別支援学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合がわずかに減少した。

主食だけや単品の朝食をとる児童生徒が増加している。

今後も、子どもたちが適切な食事を摂取し、自分の健康を守ることができるよう、「朝食摂取」と「栄養バランスのとれた食事」の重要性を指導していくとともに、発達段階に応じて児童生徒が一人でも朝食を準備することができるようなメニューの紹介や家庭への情報提供、啓発を行っていくことが重要である。

○問9 朝起きる時間は「5時前～7時前」と回答した割合は約9割、「7時～8時前」は前年度よりわずかに増加(図8)

小学校「5時前～7時前」	95.9% (R3) → 95.4% (R4) → 94.7% (R5)
「7時～8時過ぎ」	4.1% (R3) → 4.5% (R4) → 5.3% (R5 : 前年度比 0.8P 増)
中学校「5時前～7時前」	90.7% (R3) → 89.6% (R4) → 86.9% (R5)
「7時～8時過ぎ」	9.3% (R3) → 10.5% (R4) → 13.1% (R5 : 前年度比 2.6P 増)

夜寝る時間は「10時～12時過ぎ」と回答した割合は前年度よりわずかに減少(図9)

小学校「9時前～11時前」	94.5% (R3) → 94.5% (R4) → 94.3% (R5)
「11時～12時過ぎ」	5.6% (R3) → 5.5% (R4) → 5.8% (R5 : 前年度比 0.3P 増)
中学校「9時前～12時前」	83.6% (R3) → 82.7% (R4) → 84.5% (R5)
「12時過ぎ」	16.3% (R3) → 17.3% (R4) → 15.5% (R5 : 前年度比 1.8P 減)

- ・朝起きる時間について、「7時～8時過ぎ」と回答した割合が、前年度に比べ、小学校 0.8ポイント、中学校 2.6ポイントともに増加した。
- ・夜寝る時間について、小学校では「11時～12時過ぎ」と回答した割合が、前年度に比べ、0.3ポイント増加、中学校では「12時過ぎ」と回答した割合が1.8ポイント減少した。

(起床時間・就寝時間について)

小学校では前年度と比較し、わずかに起きる時間、寝る時間がともに遅くなっている。中学校では、わずかに起きる時間が遅く、わずかに寝る時間が早くなっている。小学校中学校において、睡眠時間が短い児童生徒が一定数いる。このことは、朝食摂取や朝食内容にも影響を及ぼしていると考えられる。

毎日元気に学校生活を過ごすためにも、今後も引き続き、各教科や学級活動において「早寝早起き朝ごはん」の大切さを指導していくとともに、手軽に作れる朝ごはんのメニュー等、家庭への情報提供、さらなる啓発が必要である。

8 今後の取組(福井県教育振興基本計画(令和2～6年度)の施策より一部抜粋)

○食育の推進

- ・給食の時間や各教科等において、本県独自の食育教材「ふくいこども食育チャレンジ～第一次改訂版～」(令和3年3月)を活用し、栄養教諭を中核とした学校における食育を推進
- ・栄養教諭等と児童生徒が協力して考案した「ふくいっ子アイデアメニューコンテスト」を実施
募集した朝ごはんや学校給食メニューは、HP等で学校や家庭、地域へ広く周知
- ・伝統的な食文化への理解を深めるため、だし等を使った和食給食による食育を推進
- ・「早寝早起き朝ごはん」の指導等とあわせて「共食」の習慣づくりを推進
- ・減塩・防災に関連した食育を推進

○地場産給食の推進

- ・地元の食文化への理解を深めるため、地場産食材を使用した給食を提供
- ・地場産食材に関する体験活動や授業を行い、学校給食で味わうことにより、地場産食材や農林漁業に対する理解を促進